

競技規則についての注意点

(2022 年度大会申し合わせ事項について)

日本水中スポーツ連盟主催の大会は、世界水中連盟（CMAS）競技規則（version 2022/01）に則って実施するが、あわせて申し合わせ事項として以下を適用する。

1. 使用器具について

- ① 大会で使用するフィン、スノーケルは大会毎に監査を受け、監査シールを貼ること。
シールが貼れない素材についてはそれに代わる印を受ける。
- ② 競技で使用するモノフィンは、日本水中スポーツ連盟の認定シールが貼ってあること。
（器材公認申請書に記入の上、大会受付にて所定の保険料を支払い取得することも可。）
なお、CMAS 競技規則 2.5.1.3 項にあるモノフィン CMAS 認定シール（2021 年 1 月より国際大会で施行）については適用しない。
- ③ ブレード部分がゴム製のモノフィンについては日本水中連盟の認定シールを必要としない。（大会の監査は受けること）
- ④ モノフィン及び FRP 素材のビーフィンは、ブレードのエッジ全てをビニルテープ等で保護すること。
- ⑤ 透明のスノーケルは、先端から 10 c m までの間を目立つようビニルテープ等で巻いておくこと。
- ⑥ 弁付きのスノーケルは使用不可とする。

2. 使用可能な水着について

- ① J ビーフィン以外すべての種目において、CMAS 競技規則で定められた水着のほか、CMAS 規定にある水着の素材に合致するという第三者機関の認証があるハーフスパッツタイプの水着も使用可能とする。
- ② **CMAS 認定マークのついた水着については、現時点の CMAS 競技規則に記載のない、過去に CMAS 承認を受けた水着の着用も認める。**
（ただし、Jaked LEGEND J01 等、素材が現行の規定に沿わないものは除く。）
- ③ 使用が認められない水着を着用している場合は競技に参加できない（招集を通過できず棄権となる）ため、事前によく確認のこと。

3. スタート手順について

- ① 招集所を出て、各レーンへ到達したらフィンを装着してよい
- ② 通告員によるレーン順の通告後、**審判長の連続した短い笛の合図が鳴るまではスタート台に上がってはならず、**また、フィンをプールの中に入れてはならない。（その場合は失格とする。前組の競技中にフィンをプールに入れた場合も同様。）
- ③ 審判長の連続した**短い笛の合図が鳴ったらスタートの準備をする。**
（この時点でスタート台に上がってもよい。）

次の長い笛の合図でスタート台に上がり（先の短い笛で上がってもよい）スタートの姿勢をとれるようにする。

遅滞なく準備すること。故意に遅延させるような行為が見られた場合は失格とする。

- ④ **リレー競技において前の泳者が泳いでいる間は後の泳者はプールに入ってはならない。**
前泳者の競技中に入水した場合は失格となる。（**フィンを水中に入れた場合も失格**となる。）
- ⑤ スタート台へ敷く布は、連盟が用意したもののみ使用可能とする。

4. 退水方法について

- ① 原則**タッチ板を越えての退水を禁じる。**（プール両横側から退水する。）
ただし競技役員の指示があればそれに従って退水してもよい。
- ② **競技を途中棄権する場合は、競技役員の指示に従って退水**しなければならない。
（退水指示があるまでは原則その場で待機すること。）

5. Jビーフィン規則について

Jビーフィン種目は日本固有の種目であり、以下の規則に則って実施する。

- ① ビーフィン器具については、いずれの素材、サイズのビーフィンも使用可能とする。
- ② スノーケルを装着しなくてもよい。
- ③ 水着の素材、形状に関しては特に制限はないものとする。
- ④ スタート時の姿勢についても制限はないものとする。
- ⑤ ドルフィン泳は、スタートおよびターン後15m以内のみ認められる。
- ⑥ ドルフィンキックの使用制限以外、泳法は自由とする。
- ⑦ 潜水は、スタートおよびターン後15m以内のみ可能とする。
（頭、またはスノーケルが15mを超える前に水面に出ること。）